

令和4年度病害虫発生予察情報 発生予報第6号

令和4年8月3日
発表：福島県病害虫防除所

1 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全 域	平年並	平年並	<p>作柄解析試験の結果によると、本年の出穂期は平年並と予想される。</p> <p>7月下旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場割合は平年よりやや高い(+)。</p> <p>天候予報(仙台管区気象台7月28日発表)によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや少ないと予想されている(-)。</p>	山間・山沿いなどの常発地域や無防除ほ場など既に多発しているほ場及びその周辺では、確実に防除を行う(令和4年7月20日付け防除情報参照)。
	紋枯病	全 域	平年並	平年並	<p>7月下旬の巡回調査では、発生量は平年並だった(±)。</p> <p>天候予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや少ないと予想されている(±)。</p>	<p>窒素肥料の多用を避ける。</p> <p>水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。</p> <p>気温が高いと上位葉鞘への伸展が早いため、注意する。</p>
	斑点米カメムシ類	全 域	平年並	やや多い	<p>本年の出穂期は平年並と予想される。</p> <p>7月中下旬のすくい取り調査では、畦畔、本田ともに発生量は平年並であった(±)。</p> <p>天候予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや少ないと予想されている(+)</p>	<p>散布剤による本田防除は、カスミカメ類が優占する場合は出穂7～10日後、クモヘリカメムシが優占する場合は出穂直後から7日後を1回目の散布時期とし、その後も発生が多い場合は7日おきに追加防除を行う。</p> <p>割れ籾の発生しやすい品種では、カスミカメ類による被害が助長されやすいため注意する。</p> <p>詳細は令和4年8月3日付け防除情報参照。</p>

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

ダイズ	<p>■べと病</p> <p>発生には品種間差があるため、「里のほほえみ」等の発生しやすい品種を作付けしている場合は注意してください。</p> <p>薬剤を散布する場合は、発生初期から7～10日おき程度で使用してください。</p>
-----	--

詳しい発生状況や防除対策は、福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。
お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで令和4年度農薬危害防止運動を実施しています◆
農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。